RM&FP NEWS
リスクマネジメント&ファイナンシャルプランニング

２００５年　６月　第２５号　By FP Compass

１．出生率が１．２８で過去最低

一人の女性が一生の間に産むとされる子どもの数（合計特殊出生率）が過去最低の１．２８となることが明らかになりました。

晩婚化、非婚化が進んだことと、さらに結婚しても子どもをもたない，いわゆる「ＤＩＮＫＳ」と言われる夫婦も増加しているそうです。

政府の少子化対策５ヶ年計画で、保育所整備などを推進していましたが、あまり効果は出ていません。

これは、各省庁の考案した対策を束ねたにすぎないとの印象が強く、効果を疑問視する声も出ています。

出生率の低下のため、来年度中に日本の人口が減少に転じる見通しとなりました。

これにより、日本の経済成長の鈍化を招き、公的年金などの社会保障制度は現役世代の負担で高齢者を支える「世代間扶養」の仕組みなので、出生率の低下で現役世代の税金や社会保障の負担がさらに重くなります。

そのためか、政府税調調査会（首相の諮問機関）が徴税強化の方向性を強く押し出していく旨の報道がなされています。

消費税の引き上げ論もかなり現実味を増してきています。

また、現役世代で特に若年層に多い「ニート」も社会問題になりつつあります。

６５歳以上の高齢者を現役世代（１５歳～６４歳）何人で支えているかというデータでは、

１９５０年には、１２．２人で１人を支えていました。

１９７５年には、　８．６人で１人。

２０００年には、　３．９人で１人。

２０２５年には　　２．１人で１人（予想）。

２０５０年には、　１．５人で１人（予想）。

合計特殊出生率が現状よりも減少すれば、予想値より少ない人数で支える事になります。

これは、火を見るよりも明らかで、１日も早く社会保障制度の抜本的改革を実行しなければ、大変な状況となるのは必至です。

私たちも、公的保障制度は現状よりも良くなるイメージが出ない場合、自分の事は自分で準備する事が大変重要となります。

終戦後から２０世紀末位までは国や地方行政、そして企業の大きな傘の下で、降り注ぐリスクから守られていました。自分から傘を開かなくとも良い時代でした。

２１世紀となり、気が付いて見たら、自分で傘を開かなければリスクをまともに食らい、立ち上がることも出来ないような結果となる自己責任時代となりました。

2．ここがへんだよ日本の保険

保険とはリスクの財務的移転手段であると言うことは、以前から申し上げていました。

リスクマネジメントの実務では、リスクマトリックス（別紙参照）によりリスクを分析しています。

リスクマトリックスは大きく４つに分けて分析します。

もちろん必要とあればもっと細分化して分析する場合があります。

４つの項目はリスクの回避、リスクの軽減、リスクの移転、リスクの保有となります。

この中で保険で関わってくるのは、リスクの保有と移転になります。

リスクの保有とは、自分で財務的リスクを持てる範囲内ということです。

例えば、５万円の損失が発生して、５万円を負担しました。この５万円の損失が１年間で１回程度であれば、その家計は破たんするのでしょうか。

恐らく、その家計の予備費の範囲内で十分負担できる金額ではないでしょうか。

しかし、その金額が１千万円を超えた金額となれば、大抵の家計はピンチとなります。

上限で５万円程度の損失にしかならないリスクは自分で保有することが可能となります。

逆に、１千万円以上の損失が見込まれれば、自分で負担できるのは困難となりますので、保険会社にそのリスクを負ってもらう、これがリスクの移転となります。

つまり、小さなリスクは保有を考え、大きなリスクは移転を考える事が基本となります。

しかし、現実には、小さなリスクを移転し、大きなリスクは保有しているという、摩訶不思議な状態が蔓延しています。

これは、個人のみならず法人にも見受けられます。

いわゆる売れている保険商品の中に、あえて保険化（リスクの移転）しなくとも良いようなものも存在しています。

また、大きなリスクを保険会社に移転するといっても、保険会社では引き受けしなかったり、高額な保険料を提示するリスクも結構多いのも事実です。

そこで保険は誰でも必要なものと認識されてますが、全てを保険に頼らないということも考える必要があります。

保険はリスクの財務的移転手段となれば、金融資産を増大化させ、リスクを保有できる金額を大きくすることが出来れば、補償としての保険料を大幅にコストダウンできて、かつ、リスクに強い財務体質になります。

ただし、賠償責任補償などは、損失に限度がないので、できる限りリスクを移転し、保有は免責金額にて調整をするのが大変合理的な考えとなります。

例えば、自動車保険の対物補償では、免責金額（事故発生時に初めて負担する賠償金の一部）無しで対物３００万円で契約するよりも、免責金額を５万円にして対物保険金額を無制限にした方がむしろ保険料は安くなり、そして、５万円以上は保険会社が全て払ってくれると言った大きな安心感が得られます。

最後になりますが、リスクの移転・保有というのは損害保険、生命保険、その他金融商品という垣根をなくし、トータルで考えることにより、より合理的で、内容の濃い財務リスク対策が構築されます。

3. 保険ＤＥ運用

アリコジャパンから発売されています人気の外貨建個人年金保険「レグルス」シリーズが５月１６日より「レグルスⅢ」にバージョンアップされました。

今回の改訂では、以前の「レグルスⅡ」と比較して、積立利率が総じて高くなり、実質利回りも高くなっています。

６月１日～１５日までの利率は別紙をご参照下さい。

米ドル、ユーロ、豪ドルと３つの通貨に分散投資が可能なのが大きな特徴となります。

１０年と言う長期の運用も可能で、また、据置期間をさらに延長、年金支払開始日の繰り延べが出来ますので、為替リスク対策も万全となります。

外貨運用のコツは、できるだけ長期の運用をすることにより、複利効果を高めそして受取倍率を高めれば、為替変動リスクを吸収または軽減する効果が得られます。

為替リスクが吸収・軽減出来れば、外貨建の魅力はなんといっても金利の高さです。

日本は歴史上希に見る低金利状態です。金利が０．０２％で元本が２倍になる必要年数は何年かかるかと言うときには、以前にもご紹介した「７２の法則」を思い出して下さい。

７２÷金利＝元本が２倍になる必要年数

７２÷０．０２＝３６００…約３，６００年の歳月が必要となります。

もうこれはお金を増やす目的に合致していません。

３．６％の場合７２÷３．６＝２０…約２０年で元本が２倍になります。

資産運用で最も重要なアセットアロケーション（資産の分配）に通貨の分散化が必須となります。

世界の基軸通貨である米ドルを持つことはもはや常識化しています。

4. 自動車事故にあったら…

自動車事故は日常茶飯事のごとく毎日のように発生しています。

しかし、事故の経験をしていない人もかなりいらっしゃるようなので、事故の際の手順を簡潔に述べたいと思います。

①けが人がいたら、救急救命を最優先する。救急車が必要なときは即座に依頼する。

②車が動く状態であれば、２次災害を防止するために速やかに安全な所に移動する。

③最寄りの警察に連絡をする。夜間の単独事故の時も連絡をした方が良い。

④目撃者がいれば確認をする。

⑤事故状況を把握する。

いつ、どこで、だれと（氏名、住所、電話、勤務先、車名、車の色、登録番号、受傷者氏名等）、連絡した警察署派出所名、警察官氏名、目撃者氏名連絡先等。

⑥そして、車の様々なトラブルと事故報告は０１２０－０２４０２４の１０１倶楽部まで連絡をしてください。

保険会社が発行する保険証券には右端か下に携帯用の１０１倶楽部カードが付いていますので、それを証券から切り離して免許証と一緒に携帯しておくと大変便利です。

そのカードには上記の事故状況をメモする欄があり、最低必要な情報を書きとめることが出来ます。

１０１倶楽部に事故連絡があれば、当社まで連絡が入り、一度の連絡で済みます。

24時間受付でかつ携帯電話からでもフリーダイヤルなので通話料を気にせずに通話が出来ます。

また、相手のある事故の場合、損害賠償を一方的に約束をするいわゆる全賠約束（１００％当方の過失を認めることになります）をするケースが散見されますので、過失割合や損害賠償の具体的な対応をその場では、確約しないでください。

賠償の話は、損害保険会社に一任しているということで話をしていただければと思います。

現場での約束は、口頭示談（口頭による和解交渉が成立すること）になります。

その場合、保険会社が提示する過失割合に乖離があれば、その差額は自己負担になりかねないことにもなりますので、十分に注意してください。

早期解決のコツ…車両保険に加入していると、過失の微細な部分にこだわる必要がなくなり、結果的に示談が早まります。また、対物差額修理費用担保特約も効果的と言えます。

年式の古い車両との事故の例、時価額が１０万円の車両の損害が５０万円（修理代）の場合、対物保険では１０万円の支払いが限度となります。

そこで、被害者が要求する金額と開きがでますので、ほとんどの場合、もめます。

対物差額修理費用担保費用特約では時価額＋５０万円までの修理代を支払ってくれます。

5．証券取引口座開設キャンペーン締め切り迫る

証券仲介業の業務開始にともない日興コーディアル証券会社の「証券取引口座」開設のキャンペーンが今月いっぱいとなりました。

いままで、保険による資産運用のため、中長期の金融商品しか提供出来ませんでした、今回、年齢や体況に関係なく資産運用ができる短中期の金融商品の提供が可能となりました。

日興コーディアル証券会社のほとんどの商品が取扱可能となりますので、これを機会に取引口座の開設をしてみませんか。

６月３０日までに口座開設入金していただいた方の中から抽選で１０名様に図書カード（１，０００円分）を進呈します。

6．１８歳から４５歳までのマネー＆保険講座（最終回）

日　時　　　６月コース　平成１７年６月１１日（土）　　午後２時～４時

（いずれも午後１時３０分受付開始します）

場　所　　山形ビッグウイング４階　　　　お申し込みは下記まで：担当　深瀬

◇◇◇

発行者

有限会社　ＦＰコンパス　　　武田幸夫　　スタッフ：木村正照、深瀬幸子、多田恵子

〒９９４－００５４　山形県天童市荒谷２５８９

ＴＥＬ　０２３－６５４－８８３１　　ＦＡＸ　０２３－６５４－８８３２

E-mail tide@mm.neweb.ne.jp

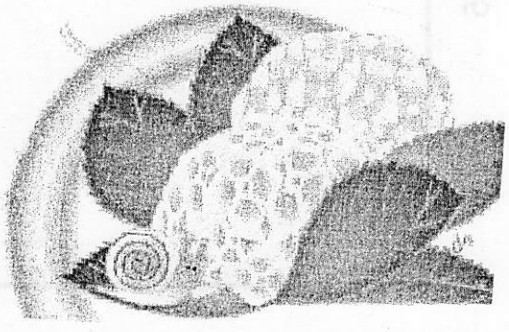
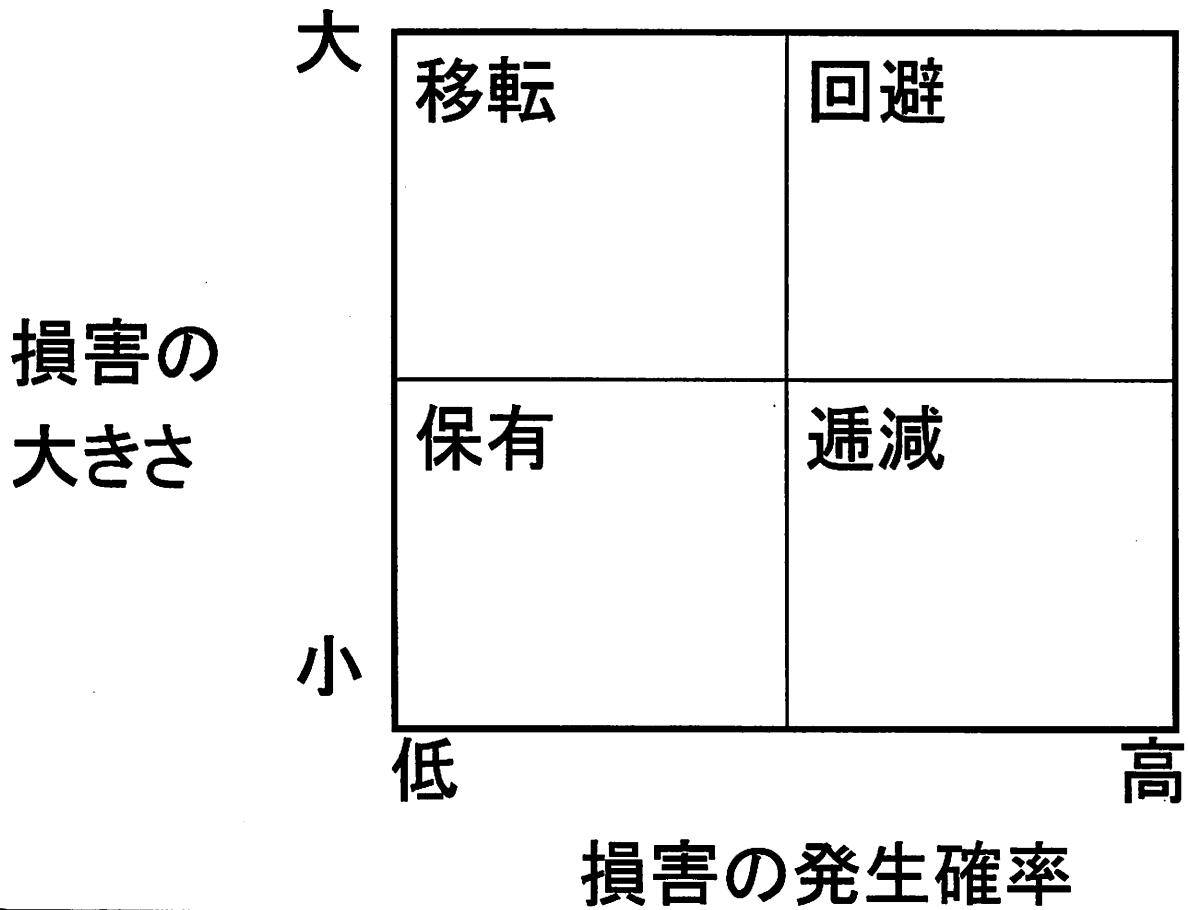
お客様の声

お金、保険について学び機会はなかなかないもので、すごくためになりました。お金を貯蓄していれば将来安全というわけではなく、将来はどんなことが起こるかわからないので、自分の将来に投資する意味で、保険のたとえというのが感じられました。
社会人として働くようになったら、私も今回学んだ基礎を活かしてお金の使い道を考えていきたいと思います。

ご氏名　　※ 匿名でも構いません

今のままでは、明らかに暗い老後の年金生活になりそうです。若い頃から、せめて30代前半にこのようなお話に触れていたら……と思います。
それにしても低金利の時代に生命保険での資産運用はすごく魅力的でした。子供達もまだ小さいのですが、お金に関する話も少しづつしたいと思います。
まずは倹約に努め、貯蓄を増やし、明るい老後になるように、日々、心がけたいと思います。

ご氏名　　※ 匿名でも構いません



リスクマトリックスの概念